

日の里大通り

未来を語るシンポジウム 報告書



日の里地区コミュニティ運営協議会
日の里地区まちづくり委員会

2023年4月23日（日）

これまでの日の里のまちづくり活動と今回のシンポジウムについて

わたしたちが暮らす日の里では、1971年のまちびらき以来、コミュニティセンターを中心に、大通りでの日の里まつりなどの活発な地域活動が行われてきました。そのため、福岡・北九州都市圏の中でも特に魅力的な子育てのまちとして、多くの若い家族が移り住んできました。

しかし、開発から時間が経過するなかで、子世代の独立と親世代の高齢化にともなう地域活動の停滞、人口の減少と空き家の発生等の課題が生じてきました。そこで、日の里地区コミュニティ運営協議会では、居住者からの公募により、2015年に日の里地区まちづくり委員会（当初は「まちづくり推進特別委員会」）を設立し、日の里を、誰にとっても暮らしやすく、さらに次世代へと継承するためのまちづくりに取り組んできました。

2016年には、長年課題となっていた東郷駅前の空き店舗を再生し、地域活性化・多世代交流拠点「CoCokara ひのさと」を開設しました。これを機に、まちづくりの新たな活動の主体も多く誕生し、日の里学園や多くの大学等とも連携しながらの力強いまちづくり活動が始まりました。

2017年からは、まちびらき50周年にむけて、「日の里NEXT 50」をテーマに次の50年の新たな日の里暮らしを創造するワークショップ、シンポジウム等を実施してきました。特に、2018年6月に東小体育館で実施したシンポジウムでは、東小前のUR団地再生をテーマに、参加者みんなで活発な議論を行いました。そこでは、一部の団地住棟をあえて残して再生することで、そこが地域の拠点となるような案をまとめました。

そのアイデアをまとめた報告書を、市とURに受け取っていただきました。その結果生まれたのが、近年全国的にも話題となっている団地再生プロジェクト「ひのさと48」（2021年5月開設）です。ここは民間企業が運営する地域施設ですが、実はコミュニティカフェ、クラフトビール工房、団地クライミングなどは、ワークショップ等での地域のアイデアから誕生した場所であり、現在も日の里学園等と積極的なコラボレーションを行ってくれています。

そして2020年には、駅前のUR住棟103号棟と104号棟の再開発が決まりました。2023年夏現在、すでに取り壊し工事が進行しています。コミュニティ運営協議会とまちづくり委員会は、これを単に住棟の建て替えではなく、日の里駅前大通り全体の魅力を向上させるような面的再生を行うことにより、将来にわたって多様な人が住みたくなる街に進化するチャンスだと考えています。

そこで今回も、まずは日の里の居住者の皆さんがこの駅前大通りに何を期待しているのか、なるべく多様な世代からその声を聞きたいと思い、シンポジウムを企画しました。当日は、100名を超える日の里内外の方々にお集まりいただき、非常に熱のこもった議論を行うことができました。今回まとめたこの報告書には、大通りを車中心から人間主体の場に、沿道のチャレンジショップとにぎわいづくり、多様な世代や地域内外の人に開かれたコミュニティ拠点、日の里セントラルパーク構想など、その熱意とアイデアがギュッと詰まっています。

今後は、行政・UR・地権者・開発事業者等とも連携しながら、この地域の想いとアイデアが活かされるようなまちづくりの実現に向けて、より活発に取り組んでいきます。

みんなの声で、日の里をより魅力的なまちへと進化させていきましょう！



日の里大通り



日の里まつりの様子



CoCokara ひのさと



ひのさと 48

日の里大通り 未来を語るシンポジウムについて

- 06 シンポジウムの概要
- 07 パンフレット
- 08 プログラム

第1部 まちづくり講演会

- 12 講話1 「歩いて暮らす、これからの街の魅力」 三浦詩乃（東京大学）
- 16 講話2 「日の里大通りの未来像」 黒瀬武史（九州大学）
- 19 九州大学・大分大学学生による大通り再生の試案
- 21 発表1 「日の里ご近所みちあそび」 藤原浩美（日の里地区まちづくり委員会）
- 22 発表2 「暮らしに目を向けた私たちの取り組み」 日の里学園9年生

第2部 日の里大通りの未来を考えるワークショップ

- 24 大通りワークショップの進め方
- 26 グループ① 大通りで「遊ぼう」
- 27 グループ② 大通りで「働こう」
- 28 グループ③ 大通りに「訪れてみよう」
- 29 グループ④ 大通りを「みんなの居場所にしよう」
- 30 グループ⑤ 「大通り」を人の居場所に
- 31 グループ⑥ 「両側の街区」をセットで考えよう
- 32 グループ⑦ 暮らしを支える「コミュニティ施設」はなに？①
- 33 グループ⑧ 暮らしを支える「コミュニティ施設」はなに？②
- 34 グループ⑨ 大通り全体を「セントラルパーク」に
- 35 グループ⑩ 「日の里全体」を魅力的に
- 36 各グループの発表をうけてのディスカッション

- 40 シンポジウムを振り返って



日の里大通り

未来を語るシンポジウムについて

- 6 シンポジウムの概要
- 7 パンフレット
- 8 プログラム

シンポジウムの概要

日の里大通り 未来を語るシンポジウム

日時 2023年4月23日（日）13:30～16:40

場所 日の里中学校体育館

主催 日の里地区コミュニティ運営協議会・日の里地区まちづくり委員会

後援 宗像市・宗像市教育委員会

参加者 102名

（一般参加：55名，日の里学園：12名，招待者20名，まちづくり委員会12名，講師3名）

招待者（敬称略）

- ・宮内秀樹（衆議院議員）・井上正文（県議会議員）・河野克也（宗像市副市長）
- ・吉田剛（市議会議員）・北崎正則（市議会議員）・井浦潤也（市議会議員）
- ・上野崇之（市議会議員）・山田悠介（UR都市機構）・高崎浩（宗像市都市再生部長）
- ・中村博二（宗像市教育部長）・田村泰貴（宗像市コミュニティ協働推進課長）
- ・内田忠治（宗像市都市再生課長）他市役所5名・栗原和亮（日の里中学校校長）
- ・大淵裕三子（日の里東小学校校長）・七田美恵（日の里西小学校校長）

目的

日の里の駅前では、大通りに面したUR高層住棟2棟（103号・104号）の再開発が決まり、すでに取り壊し工事が始まっている。

しかし、単に2棟の建て替えにとどまるものではない。様々な年齢や性別や国籍の人たちが住みたくなる住宅とは？誰にとっても使いやすい商店街とは？若い親子が楽しく遊べる広場がほしい？様々な趣味や特技を持つ人のチャレンジショップがあったらいいな？誰もが学んだり働いたりできるワークスペースをシェアしたい？

今こそ、日の里の顔といえる駅前大通りについて、道路・歩道から両側沿道の住宅・店舗・広場まで、総合的に再生する好機である。これまでの日の里50年を支えてくれた大通りが、次の50年、新たな日の里の中心としてどのような役割を果たすべきか、地域のみんなで夢を語り合いましょう。

～ Hinosato 2nd Stage ～

未来を語るシンポジウム



2023年4月23日(日)

13:30～16:40

日の里中学校体育館

.....
日の里住民の方は
どなたでも参加できます

.....
一緒に日の里の未来を
考えましょう！
.....

シンポジウムの目的

駅前大通り（高層アパート103・104号棟の建て替えを含む）
を中心とした日の里のまちの未来について学びを深め
住民を中心とした参加者間の対話を通して
住み良いまちにするための具体的な方法を探ります

申込・問合せ先

日の里地区
コミュニティ運営協議会

☎ 0940-37-1587（月曜休館）

✉ hinosato-cc@coda.pcn.ne.jp

こちらのフォーム
からもお申込み
いただけます



申込締切：4月21日（金）

中止の場合は日の里コミュニティホームページ
www.hinosato.jpにてお知らせします

第1部 まちづくり講演会

- 13:30 開会の挨拶 黒川貞一郎（日の里地区コミュニティ運営協議会会長）
- 13:35 講話1「歩いて暮らす、これからの街の魅力」三浦詩乃（東京大学大学院特任助教）
- 14:20 講話2「日の里大通りの未来像」黒瀬武史（九州大学大学院教授）
- 14:35 発表1「ひのさとご近所みちあそび」藤原浩美（日の里地区まちづくり委員会）
- 14:42 発表2「暮らしに目を向けた8年生のペンチ作り」日の里学園8年生
- 14:50 ～5分休憩～

第2部 日の里大通りの未来を考えるワークショップ

- ファシリテーター：柴田建（大分大学准教授）
- 14:55 趣旨説明（ワークショップの進め方）
- 15:05 各テーブルに分かれての大通り、高層アパート建て替え、ワークショップ
- 15:50 各テーブル発表
- 16:10 パネルディスカッション（今後のまちづくりへの期待）三浦詩乃、黒瀬武史
- 16:40 閉会

プログラム

第1部 まちづくり講演会

- 13:30 開会の挨拶 黒川貞一郎（日の里地区コミュニティ運営協議会会長）
- 13:35 講話1 「歩いて暮らす，これからの街の魅力」三浦詩乃（東京大学客員連携研究員）
- 14:20 講話2 「日の里大通りの未来像」黒瀬武史（九州大学大学院教授）
- 14:35 発表1 「日の里ご近所みちあそび」藤原浩美（日の里地区まちづくり委員会）
- 14:42 発表2 「暮らしに目を向けた私たちの取組み」日の里学園9年生
- 14:50 ～5分休憩～

第2部 日の里大通りの未来を考えるワークショップ

- ファシリテーター：柴田建（大分大学准教授）
- 14:55 趣旨説明（ワークショップの進め方）
- 15:05 各テーブルに分かれて意見交換
- 15:50 各テーブル発表
- 16:10 パネルディスカッション（今後のまちづくりへの期待）三浦詩乃，黒瀬武史，柴田建
- 16:40 閉会

当日の写真



シンポジウムの会場となった日の里中学校



日の里中学校 体育館



まちづくり講演会



ワークショップの様子



各グループでの話し合い



各グループの発表

第1部 まちづくり講演会

近年、世界中の都市で、みちを自動車のための「道路」から人間のための「ストリート」へと再生する取り組みが活発に行われています。そこで、世界のストリート再生を研究している三浦詩乃先生と、九州各地で実践を行っている黒瀬武史先生に、あたらしいみちのビジョンを提示してもらいました。一方日の里では、「日の里ご近所みちあそび」、日の里学園8年生のベンチづくりの活動など、みちを人の居場所とする取り組みが先駆的に行われてきました。

これらの講演を聴くことで、参加者全員、日の里大通りの未来を、より自由に、より楽しく想像することができました。

12	講話1「歩いて暮らす、これからの街の魅力」	三浦詩乃
16	講話2「日の里大通りの未来像」	黒瀬武史
19	九州大学・大分大学学生による大通り再生の試案	
21	発表1「日の里ご近所みちあそび」	藤原浩美
22	発表2「暮らしに目を向けた私たちの取り組み」	日の里学園9年生

歩いて暮らす，これからの街の魅力



東京大学客員連携研究員
一般社団法人 STREET LIFE MAKERS 代表理事
専門は都市デザイン，公共空間のデザイン・
マネジメント。
著書に「ストリートデザイン・マネジメント
公共空間を活用する制度・組織・プロセス」
(共著・2019年)等。

三浦詩乃

私の専門は都市デザイン分野で，そのなかでも道路・街路などの「みち」のデザインをテーマに活動しています。みちを変えれば街も変わる，と考え，日本の各地でまちづくりに関わっております。

みちのデザイン？

今日は、「みちのデザイン」についてお話しますが，すぐには何のことかピンとこないかもしれません。そこで，まずは皆さんが考える「ふつうのみち」について，お隣の人と語り合ってみてください。

— 2分経過 —

今度は，皆さんが思う「みらいのみち」について，話し合ってみてください。

— 2分経過 —

みちのデザインとは，単に見た目をおしゃれにするということではなく，形「みちに何があるか」と，中身「みちで何をするか（目的）」を対応させながら考えていくことが大切です。皆さん，今語り合っていた中で，「みちで何をするか」という中身の話も出てきましたか？

みち（ストリート）とは，自分の暮らしに最も近い公共空間です。このみちで「何をするか」という中身を改めて考えることから，これまでの「ふつう」を超えて，より暮らしやすい街へと変えていくことができるのです。今日のワークショップでも，まさにこの中身についてより深く議論していただければと思います。

みち(ストリート)のデザイン

-中身(みちで何を**する**か)から。

-これまでの「ふつう」を超えていく



新しいみちの指標

これまでの「ふつう」のみちは、戦後の自動車が急激に増えていく時代に、渋滞や交通事故などの心配事を減らすために、生活空間を削ってでもと、利便性を重視してつくられてきました。

これからのみちのデザインは、ヒトの存在感をなるべく高めてストレスを減らしていくことが大事になります。そのために、まずは考える指標を変えることが効果的です。例えば、以下のような実践が行われています。

- ・台数より人数：通過する車の台数ではなく、バス・自転車も含めて、利用する人の数で空間・エネルギーの効率を考えること。世界の先進都市では徹底的に歩行者のほか、バスや自転車を優先するまちづくりが行われています。

- ・人数だけでなく質：通勤時は俯きがちで急いで歩く人が多いみちでも、ある時刻からはいろんな活動ができるように運用を変えると、街に笑顔が増えていきます。みちのデザインの最前線であるシドニーでは、人が自由に往来できるように大通りにガードレールがなく、ベンチを置くなどの設えがなされています。

ウォーカビリティ：歩くことから地域に波及する価値

歩く人のための空間が増えると、結果的に、健康、出会い等の効果があるという認識が、1960年代からの多くの研究や実践によって積み重ねられてきました。

実際に既存のみちの歩行者空間を拡げると、新しいチャレンジに取り組む面白い人が集まってきます。姫路駅前の大通りでは、歩行者空間を拡げるデザインをきっかけに、地域の若手がクラウドファンディングを活用した起業を行い、さらには地域外の人も仲間に入れながら社会的・経済的な繋がりをつくって、空間の再生を実現しているところです。

様々な人、活動、移動方法でシェア

これからのみちでは、様々な人、活動、移動方法をシェアすることが大切です。多様な手段をシェアすることで、身体を使う機会が増え、例えば高齢者の健康等にも繋がります。

この「シェア」という概念は、自動車の使い方にも広がってきています。特に若い世代は、環境さえ整っていれば自家用車にこだわらなくなっており、シェアとサブスクリプションの仕組みを用いた新しい移動のサービスも提供されています。例えばベルリンでは、元ガソリンスタンドをリノベーションしたモビリティハブという結節点空間で、シェアカーや電動キックボードなどのマイクロモビリティが、スマホアプリで一括して利用できるようになっています。

広場のある暮らし



文化を感じる暮らし



暮らしを変えるみちのデザイン①：広場のある暮らし

では、暮らしを変えるみちの具体的なデザインを、3つの観点から紹介したいと思います。

まずは、「広場のある暮らし」です。ニューヨークでは、特に2000年代に入って、色々なタイプの広場が街に散りばめられています。元々は車のための道路や駐車場で、2、3台分のスペースを広場にするプロジェクトです。市内70箇所で開催されています。ある地域の代表の方にインタビューをした際には、そこまで広い広場ではなくても、「暮らしている人たちがまちを誇らしく思うようになった」と答えていました。沿道の店も、当初は客が車で来られなくなるのではと反対していましたが、今では協力的になったそうです。2000年代市政を担ったブルームバーグ市長とそのチームが、「街路は市行政にとっての不動産だ」として、市内9,700kmの街路を変えることでニューヨークの価値を上げる取り組みとして実施してきました。

暮らしを変えるみちのデザイン②：文化を感じる暮らし

2つ目は、「文化を感じる暮らし」です。ドイツのミュンヘンでは、空爆をうけた街を、以前の姿にそのまま復元しています。そのため、凸凹と曲がる中世のみちがそのまま残されています。そして生まれた凸凹の空間は、パフォーマーがいたりカフェの屋外席があったりと、色々な活動ができる余地となりました。こども、以前は車が行き交う道路でしたが、人の空間として見直しがされ、このような状態となったのです。ミュンヘンでは旧市街の街路の多くが現在では歩行者専用空間となっています。これは、最初はある街区で駐車場だった中庭を広場に変えたことから始まりました。現在も中庭ではフリーマーケットが行われ、みちへしみ出し、一体として使われています。その地域らしいマーケット文化が醸成されていったのです。

日常的に活気が感じられる空間は、「活動のポケット Activity Pocket」がある所です。ここでは、人の密度よりも、単独の利用、親密な人どうしの利用など、人々の多様な関係性の混ざり合いが重要です。様々な活動のポケットを沿道につくっていくことで相乗効果がうまれる、そんな取り組みが世界のみちづくりで行われています。

暮らしを変えるみちのデザイン③：自然が身近な暮らし

3つ目の観点は、「自然が身近な暮らし」です。イギリスの有名な田園都市であるウェリンの駅前街路は、一直線に伸びる緑の帯となっていて、まさに“田園に近い暮らし”というメッセージを体現した空間となっています。ぜひ日の里でも、このようなメッセージ性のある緑の空間ができればと思います。



「ふつう」を変える、2つの取り組み方

これらの事例のように「ふつう」を変えていくには、2つの取り組み方があります。

1つ目は、「緩く」すすめる方法。普段から手ずから関わる接点を、みちと家の間に設ける取り組みです。

オランダ・デルフトでは、「ボンエルフ（生活の庭）」という、世界で初めて、車を“ゆっくり”走らせるみちづくりが行われました。これは、車の「速さ」が正義だと思われていた時代に、むしろ歩行者のペースに車が合わせて共存することを目指してつくられたみちです。まちづくりの教科書的には、道幅を一部狭くしハンプを設けることで車を減速させる手法に目がいきます。しかし実際に訪れてみると、沿道の緑など自ら手入れする領域、窓辺にベンチをおくなど、通りに開いた暮らし方など、周りの住まい方が効いていて、沿道との一体の空間づくりが行われています。

2つ目は、「大胆な」取り組み方です。大胆な案には、必ず反対意見がでできます。ウィーンのある4車線の大通りでは、車線と歩道の区分をなくして人と車がゆっくりと共存するフラットな通りになっています。現在の様子を見るととても良いなと感じるのですが、当初は反対意見が多くありました。そこで、道の真ん中で今日のようなワークショップを開きながら、過半数の同意が得られた時点で実施し、実際に使っていく中で徐々に理解してもらって賛成を増やしていきました。誰かを想うアイデアは必ず共感を生みます。

大切なことは、「エリアからまち全体へ」ひろげる観点です。茨城県境町では、自動運転バスが時速20km/hで走っています。最初は渋滞が起きるのではなどの心配もありましたが、無料で窓の大きいバスが路線をぐるぐると回る中で、乗客とドライバーがアイコンタクトするようになり、結果的にはお互いが思いやりを持ち運転マナーが向上しました。

みちのプロジェクト化にむけて

こうしたみちのプロジェクトを実現するには、以下の5つのレベルがあります。

- Level 1 アイデアの仮説検証 / 結果、課題有（人によっては失敗と呼ぶ人も）
- Level 2 効果検証 / 機運形成：意義を知ってもらい、賛層を広げる
- Level 3 空間再配分や利活用の実行
- Level 4 沿道への直接的効果：利用者数、利用時間の拡大、一部業種の売上げ
- Level 5 沿道への波及効果：通り全体のイメージ向上、沿道業態の新規事業試行など

ここで大切なことは、何を成功とするかについて、まずはチームで共有することです。この整理が明確ならば、適切なコミュニケーション戦略を決めることができます。日本では、Level 1 で仮説検証した際に、課題が出たことで失敗と呼ばれることがあります。でもこれは、皆さんが出したアイデアに世の中が追いついていない状態です。本日の議論が、ぜひ、建設的な場になればと思います。

賛成半数いたら実施→実際に使っていく中で賛成が広がっていく

ウィーン
駅前広場広場

2011 仮説検証
2012 効果検証
2013 空間再配分
2014 直接的効果
2015 波及効果

茨城県 境町 自動運転バス

20km/h、ゆっくり走るバス（路線有/路線の合う広い道）
「存在感」+「コミュニケーション」→地域のドライバーのマナー向上

日の里大通りの未来像



九州大学大学院教授

専門は都市デザイン・都市計画。

人口減少と市街地縮退に対応する都市デザインのあり方等について研究を行っている。著書に「米国のブラウンフィールド再生 ―工場跡地から都市を再生する―」（2018年）等。

黒瀬武史

三浦先生のお話を受けて、ではこれからの日の里駅前大通りをどうしていけばよいのか、私からは皆さんが考える際の素材提供としてお話をさせていただきます。

大通り沿いの低未利用地の活用

私が初めて日の里大通りを見たときには、人工物と自然が一体となった、非常に美しいみちだと感じました。皆さんにとっても、この大通りはまちのシンボルであり、思いの詰まったみちだと思います。

今日皆さんにお伝えしたい一番大事なポイントは、駅前大通り両側に、空き地とまでは言いませんが、駐車場や低未利用地が多数存在するという事です。大通り両側の街区の状況を調べた図を見てみると、私の目から見てももっと使わせればいいのに、と思われる区画が、URの街区も含めてかなり多くあります。おそらく、日の里の中で、駐車場や空き地が最も多く集まっているのは大通り沿いだと思います。

みちとまちは、一緒にできています。そこで皆さんには、このあとのワークショップで、その土地所有者に関係なく「ここにこんな場所ができたらいいな」「こういう街になったらいいな」というアイデアを出しながら、ぜひこれらの通り沿いの建物や土地をどう活用するかも議論してほしいと思います。



駅前大通りを考える際のポイント

駅前通りの両側には、
駐車場や低未利用地が
多数存在する

駅前通りの再生を考える時に
通り沿いの建物や土地も
一緒に活用を考えてほしい！



大通り沿いへの施設の誘導

宗像市は、まちの将来計画にあたる「立地適正化計画」を策定しており、東郷駅前や赤間駅前等を、戦略的に再生するエリアとして指定しています。特に東郷駅前では、駅前大通りから UR 団地・東小学校までが、これからのまちの中心として大事にしていく、都市機能誘導区域に指定されています。この区域には、国からの手厚い補助支援があります。

国は、高齢者が車がなくても安全に暮らせるまちづくりの方針を出しており、特に駅の近くの事業には多くの補助金を出すという方向に変わってきています。つまり、広場・緑地・コミュニティセンターなどの住民が利用する施設を駅の近くに作れば、それに対して国はしっかりと応援するということです。

私は、日の里でこれからそのような施設を作るのであれば、それは駅前大通りとその周辺が良いと思います。単にコミュニティセンターのみではなく、例えば、病院・福祉施設や図書館、さらにはスーパーなどの商業施設でも、それを新しく作ったりこの地区に移したりすることに対して、国からの支援も期待できます。

このようなことを頭に入れながら、自分自身が、あるいは子どもや孫たちが、50年後も住みたいと思うのはどんなまちなんだろう、ということをも是非考えてほしいと思います。

大通りのイメージ刷新する学生提案

これまで、柴田先生と一緒に、九州大学や大分大学の学生たちと日の里大通りの再生案を考えてきました。これが良い、ということではなく、こんな考え方もありますよ、ということで、学生の提案をいくつか紹介したいと思います。

一つ目の学生案は、大通り沿いの建物を木造で増築・リノベーションすることで、居心地の良い居場所とする案です。学生たちが、初めて大通りを訪れた際に広くて少し冷たい印象を受けたことから、木材を使って温かみのある建物に改修し、さらに車線を減らして街路樹を植えることで、居心地のいい場所に変えようとしています。

二つ目は、思い切って駅前大通り全体を大きな広場にしようという案です。札幌や名古屋の大通公園のようなまちのシンボルになるような広場を作ったら、このまちに住みたいという人が増えるんじゃないか、そんな提案です。

103,104号棟解体が決定した後の2021年7月には、駅前大通りと両側の沿道の一体的な再生案を、あらためて両大学で考えてみました(p19・20に掲載)。例えば、UR高層棟の解体時には、103号棟の一部をあえて残し、そこに丘の上からコミュニティセンターを移設しています。104号棟は、若い子育て世代が住む新築マンションに建て替え、その間を「みんなの原っぱ」という自由な広場にする案です。



ヒトとクルマが共存するみち

この学生案では、大通り沿いについても、車でも歩いても行きやすい通りにするための「ちょい寄り」という提案を行っています。大通りの両側1車線に路上駐車できる場所をつくることで、車で来てちょっと寄ってコーヒーを買ったり、30分ほど停めて沿道の店で過ごしたり、子どもを迎えに行ったときにちょっと井戸端会議ができたりします。

なぜこのような絵を描いたかという、例えば Google の描いた未来予想図もありますが、自動運転が普及すると車と歩行者は今よりもっと仲良くできるのではないかとされています。自動運転の車は歩行者を大事にしてくれるので、車と歩行者が共存し、車から乗り降りする場所がもっと大切になってくるのです。その際に、車道と歩道の関係を改めて考える必要があります。

現在の4車線の日の里大通りには横断歩道がありませんが、実際には横断している人をよく見かけます。危ないけど渡りたい、それならやはり安全に渡れるようにしたほうが良いと思います。そこで2車線にすることで安全に渡れる横断歩道をつけようという提案です。

さらにアイデアとして、内側の2車線は従来どおり車で走れるようにしながら、両側の車線については、先ほどの路上駐車やオンデマンドバス「のるーと」の乗降場所、あるいは自動運転の車がゆっくり走って歩行者と共存するような場所にするような議論も行われています。

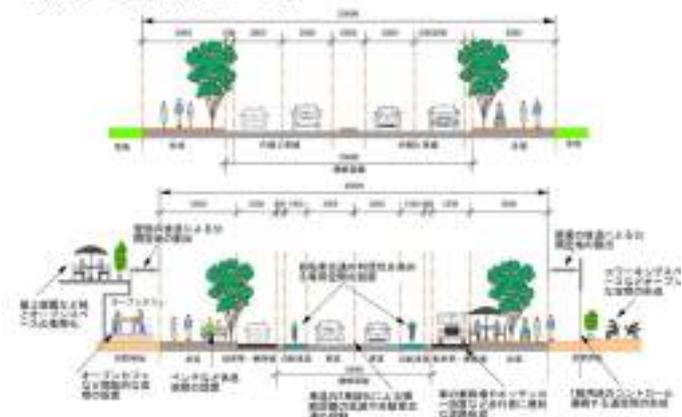
本日のワークショップに向けて

本日のワークショップは、非常に貴重な機会になると思っています。そこでぜひ、「まち」と「みち」の未来を思い切って描いてみてください。「これを言うと周りから反対されるかな」ということも思い切ってはっきり言っておかないと、段々と無難な案になっていくのが世の常です。思い切って、こんな未来がいいな、こんなまちになったら住み続けたいな、という未来を描いてください。そしてその際にはぜひ、今日お話したように、「まち」と「みち」を一緒に考えてみてください！

「ちょい寄り」で、ヒトもクルマも使いやすい駅前通りへ



駅前大通りの将来イメージ例



車と歩行者が共存し、需要によって変化する街
車道と歩道の境界のデザインが大切になりそう！



時間帯により使い方が変わる道路



日の里ご近所みちあそび



日の里地区まちづくり委員会 子ども支援グループ
子ども支援ネットワーク With Wind 代表
日本冒険あそび場づくり協会 地域運営委員（福岡県担当）
福岡プレーパーク連絡協議会 事務局
子育て支援プログラム IPPO（いっぽ） トレーナー
NPO 法人子どもとメディア 公式インストラクター
日の里学園運営協議会委員

藤原浩美

日の里地区まちづくり委員会は、子どもが元気に遊んでいる風景の見える街（子どもの声のする街）を目標の一つとして活動しています。

ロンドンのストリートパーティーから始まった『とうきょうご近所みちあそび』とは、地域の人たちみんなで身近な道で遊ぶことを通して、大人も子どもも住みよい街を考えるきっかけをつくるプロジェクトです。それを日の里でも行ったのが、『日の里ご近所みちあそび』です。

子どもの死因の第1位が自殺であることから、日本の子どもは息苦しい中で生活しているといえます。

特に夏休み明けの9月1日は、もっとも自殺が多い日です。そこで、初回の『日の里ご近所みちあそび』は、2019年の9月1日に、その日を楽しい日にしようと予定しました。残念ながら、当日は雨のため中止になりましたが、日程を変更して開催。その年以降、年1回の開催をしてきました。九州初の試みということもあり、初回は市長さんもお見えになりました。開催場所は、日の里西小学校と日の里東小学校の横の道を車両通行止めにして、1年ごとに交互に2019年から2022年まで4回行いました。いつもの通学路が遊び場になり、人間ボーリングや宝探し（地域の方々のサインが宝）、大縄跳び、昔遊び、こたつでくつろぐ等を行いました。子ども達は、思い思いに遊び、大人も一緒に遊んで楽しそうでした。子どもの笑顔、はしゃぐ声が嬉しかったです。校長先生たちが遊ぶ姿を見て、子どもが安心し、行き渋ってた子が学校へ行くきっかけになったという事もありました。思いっきり遊んだ後は、子ども達が遊びの延長として道をきれいに片づける姿も毎回見られます。

やりたいことをやっているから満足度が高く、大学生、高校生、中学生、小学生、それより小さい子達も、大人も、学校の先生も、そこに関わった人みんなで居心地の良い場を作っています。誰も無理していないから、みんな気軽に集えて、自然と多世代交流が生まれます。

まちじゅうが子どもの遊び場になり、遊ぶことで、子ども達の生きる力を育みたいのです。

50年後の日の里、日の里駅前大通りが人々が歩いて暮らす公園、セントラルパークになっていたらいいなと思います。

今年度の『日の里ご近所みちあそび』は、5周年ということもあり『日の里ストリートパーティー』と進化させて、日の里駅前大通りで開催予定です。みんなでセントラルパークのイメージを作れたらいいなと思います。



暮らしに目を向けた私たちの取り組み



昭和 50 年 4 月に、宗像市内を一望できる高台に日の里中学校が開校。ひのたんは、日の里中学校の生徒が発案したマスコットキャラクター。

日の里学園 9 年生

日の里の課題は、日の里地区の建物の老朽化や人口減少、少子高齢化で、特に高齢者の割合が 35.4% であることです。そのため、高齢者にとって住みよい日の里をつくれれば、みんなが住みよい日の里になるのではないかと思います。

高齢者との協議会では、日の里のまちは、坂が多いので、買い物や散歩の途中で休憩できる所があったらいいなという意見を伺いました。そこで、私たちはベンチをつくろうと考えました。しかし、市役所や地域の方にベンチ設置について相談すると、公道にベンチを置くのは難しいと安全管理上言われました。地域の高齢者との七夕絆交流会や社会福祉セミナー実践発表、各町内会に設置依頼の手紙等で呼びかけると、「公民館の前や公園においてほしい、管理は自分たちで行います。」「家の前に以前おいていたベンチを老朽化により処分したため、さみしい思いをしていた。家の前においてくれないか？」と声をかけていただきました。

そこから、ベンチづくりを開始しました。ここでまた新たな問題が 2 つ発生しました。1 つ目は、材料購入の資金がないことです。フリーマーケット（ひのたんマーケット）を開催し、7 万円を超える売上があり、ベンチづくりの資金を得ることができました。2 つ目は、安全なベンチを自分たちだけでつくれるかという問題です。こちらも地域の方々に協力していただくことができました。地域の方のご指導のおかげで、設計・制作・色塗りを自分たちの手で行うことができ、4 つのベンチを日の里の地域へ贈呈しました。

さらに、日の里のまちを住みよいまちにしたいと思っています。明るく元気で挨拶が飛び交う楽しい町、優しさ・思いやり・譲り合いに溢れた笑顔いっぱい町、世代に関係なく仲良く関わり合いつながりあう町、自然豊かで、治安が良く活気あふれる町、私たちはこんなまちづくりを目指します。そのために、未来の日の里にあったらいいな！できたらいいな！を考えました。多世代が関われるカフェなどが入ったショッピングモールや遊園地、異年齢が集まる行事、お散歩ストリート、地域みんなで花いっぱい活動、1 階を交流スペースにした福祉施設です。私たちのあったらいいな！できたらいいな！という願いを皆さんと一緒に実現できることを楽しみにしています。



第2部 大通りワークショップ

講演会のあとは、いよいよ参加者全員でアイデアを出し合うワークショップです。

現在の日の里で最も徒歩や自転車で移動している中学生たち，子育て中の親子，地域で商いや仕事をしている大人，退職後に元気に活動している高齢者などの様々な人たちが，自身が議論したいテーマを選び，そのテーブルに付くことから始まりました。

たまたま同じテーブルについた老若男女のメンバー。自己紹介後は，中学生も物怖じすることなく意見を述べ，それぞれの世代や立場の違いも尊重しながら，個人では思いつかないようなステキなアイデアをまとめ，発表してくれました。

- 24 大通りワークショップの進め方
- 26 グループ① 大通りで「遊ぼう」
- 27 グループ② 大通りで「働こう」
- 28 グループ③ 大通りに「訪れてみよう」
- 29 グループ④ 大通りを「みんなの居場所にしよう」
- 30 グループ⑤ 「大通り」を人の居場所に
- 31 グループ⑥ 「両側の街区」をセットで考えよう
- 32 グループ⑦ 暮らしを支える「コミュニティ施設」はなに？①
- 33 グループ⑧ 暮らしを支える「コミュニティ施設」はなに？②
- 34 グループ⑨ 大通り全体を「セントラルパーク」に
- 35 グループ⑩ 「日の里全体」を魅力的に
- 36 各グループの発表をうけてのディスカッション

大通りワークショップの進め方

ファシリテーター：柴田建

(大分大学准教授・日の里暮らしの編集室代表。日の里中学校出身。
全国各地で、郊外ニュータウンの再生に取り組んでいる。)

前半の講演会では、大学の先生と地域の仲間が、それぞれ素敵な話を聴かせてくれました。こんなワクワクする話を聞いて、参加者の皆さんもそれぞれ自身のアイデアを披露したくてウズウズしていることでしょう。

そこで今回のワークショップでは、皆さんがアイデアを出しやすく、さらにもっと大切なこととして、それが他人のアイデアと化学反応を起こしてより魅力的な提案へと話が盛り上がるように、ちょっと変わった進め方をしたいと思います。

1) テーブルごとのテーマ設定

事前にまちづくり委員会で議論を行い、さらに先程の講演会で「これはおもしろい!」と感じたことを整理して、今日みんなでアイデアを出したい10のテーマを設定しました。

まず、前半の5つのテーマは、大通りで「何がしたいか」ということを考えてもらいます。

テーブル① 大通りで「遊ぼう」:子どもとして遊んだり、親子連れで遊んだり、大通りがあそび場になるといいな。

テーブル② 大通りで「歩いて話そう」:散歩したりしたい、誰かと会って話したり、カフェがあって話したり、中高生が彼氏彼女と一緒にデートしたりする場所があったらいいな。

テーブル③ 大通りで「働こう」:日の里はベットタウンといわれますが、今や、リモートワークなどでどこでも働けるようになっていきます。日の里で働く人も今後もっと出てくるため、その人たちがどんな働き方をしながらここで暮らすといいかな、そういう新しい仕事などのイメージを。

テーブル④ 大通りに「訪れてみよう」:日の里の中の人で閉じ籠もっても、なかなか新しいことはおきません。宗像には世界遺産もあるので、外国のお客さんに日の里に来てもらうとか、外の人々が来たくするような魅力を考えよう。

テーブル⑤ 大通りを「みんなの居場所にしよう」:高齢者の方や若い人、車いすの人、認知症の人、障害を持った人、誰もが楽しめる街を考えよう。

後半の5つのテーブルは、具体的な場所のデザインや将来像について議論してもらいます。

テーブル⑥ 「大通り」を人の居場所に:道幅を狭くして歩行者空間を増やすなど、今の車中心の道路をどう変えていくのか。道沿いの店舗との関係も大事。

テーブル⑦ 「両側の街区」をセットで考えよう:特にURと反対側の、駐車場などが多い街区をもっと活用して、若い世代向けアパートや施設を誘致できないか。両側の役割分担も大事。

テーブル⑧ 暮らしを支える「コミュニティ施設」はなに?:丘の上の現在のコミュニティセンターを、大通り沿いに移転するとしたら、どんな場所にしたいですか?子ども図書館など、他にほしい施設はなにですか?

テーブル⑨ 大通り全体を「セントラルパーク」に:ご近所みちあそびの講演を聞いて、いっそ、駅前全部を遊び場・公園にしてしまおう、と生まれたテーブル。ぜひ大胆な提案を!

テーブル⑩ 「日の里全体」を魅力的に:駅前の再生が進んだ際に、日の里全体はどんな街になるのか、総合的な将来ビジョンを。

2) 自由にテーマを選択して着席

参加者の皆さんには、好きなテーマを選んでテーブルについてください。調整はしないので、自分が一番楽しいテーマへ。

(移動後) テーマ「歩いて話そう」のテーブルは、人気がなくだれもいかなかったので、今日は無しにします。かわりに、テーマ「コミュニティ施設」は、やはりコミュニティセンターの移設について関心がある人が多かったようで10人を超えてしまったので、ここは2つのテーブルに分けたいと思います。

それでは、テーブル毎に、自己紹介から始めてください。

3) テーマごとにアイデア出し

それぞれの机には、紙を貼っています。そこに、ペンで自由に落書きしながら、自分のアイデアを発表していきましょう。大事なことは、他人のアイデアを絶対に否定しないこと。ギャグのようなアイデアが実現することもあります。

4) ワールドカフェで、「他国」へ旅にでる

各テーブル、非常に盛り上がりましたね。では、ここで一旦議論をやめて、旅に出ます。

まずは一人、そのテーブルに残る人を選んでください。他の人は、今のテーブルとは別の、自分が2番めに関心のあったテーブルへ旅に出てもらいます。旅先のテーブルでは、一人残った人が、これまでどんなアイデアが出たのか紹介してください。それに対して旅人は、「うちのテーブルではこんなアイデアが出た」と伝えて、アイデアを膨らませてください。

5) 帰国して、みんなでプレゼンテーション作成

各々異なるテーブルから「帰国」したメンバーは、それぞれ新たなアイデアを見聞してきたことになります。それを披露し合ったうえで、各テーマのプレゼンテーションをまとめてください。

6) 最後に発表!

最後に発表者を決めて、準備ができたところから発表をお願いします。

(一番若手の中学生が頑張って発表するグループ、まとめ役のリーダーが説得力のあるプレゼンテーションをするグループ、交代でみんなが発表するグループなど、発表のしかたはそれぞれ自由!)



議論する
テーブルを決める



議論



各テーブルに戻り
プレゼン作り



決めたテーブルに移動
自己紹介



移動



発表

1. 大通りで「遊ぼう」

私たちは、「天神や博多でできないこと」をコンセプトとして、多世代が混じりながら遊ぶことができる場所について考えました。毎週曜日を決めて「道で遊んでいい」ということを、イベントとしてできる日を作って、みんなで交流できる場所を作れたらいいなと思いました。その具体的な内容として、今の子どもたちはスマホとか持っているため、Wi-Fiを設備した環境を整えることや、芝生の上にステージやベンチがある所、子どもだけで遊べる空間が欲しいという意見が出ました。

また、子どもが喜ぶような駄菓子屋さん、パフェ、テイクアウトできるお店、そしてアスレチック等、たくさんの人がいる場所が安心できるという親の意見があったため、そういった場所を作ったらいいかなと思いました。

さらには、天神とか博多でできないような遊園地の手作りジェットコースターを作るという案も出ました。

最後に、大通りは駅まで行く道のが結構長いから、動く歩道等をつけたらいいなと思いました。



キーワード

- ・天神博多じゃできないこと→多世代が混じりながら遊ぶ
- ・そもそも「道で遊んでいい!」というイベント
- ・木登り、水遊び、基地づくり→子どもたちだけで遊べる空間
- ・芝生、ステージ、ベンチがあるといい
- ・駄菓子屋・カフェ
- ・アスレチック（たくさん体を動かせる場所）→トランポリン
- ・新しい友達ができる場所
- ・動く歩道
- ・たくさんの人がいる場所で遊ばせるのが安心
- ・毎週〇曜日イベントの日をつくる
- ・WiFi みんなが使える
- ・テイクアウトできるフード
- ・遊園地・手作りジェットコースター（めっちゃ怖い）
- ・駄菓子屋・カフェ

天神や博多にあるものをもってきてしまおうと思いがちですが、ここでしかできないことをやろうという発想、出発点がいいなと思いました。もう一つは、みちを見守ってくれる誰かがいるのが大事だということをおっしゃったのがすごく印象的で、ちょっとした見守ってくれる店だったり、カフェだったり、そういったものが近くにある町というのは、みなさん安心できるかな、やはりそういうものを求めているのかなと感じました。



黒瀬先生

2. 大通りで「働こう」

まず、働く場所が必要だということになりました。宗像は北九州と福岡、両方通勤でき、それが便利だということで住まれることが多いのですが、結果的には両方遠いということに気づいてしまいます。それが、コロナのおかげで通勤しなくても仕事ができるようになったため、地元で働きたいという話になります。働く場所を作るときに、シェアオフィスという考え方もいいのですが、日の里にあるニッチなスペースを活用して、ON.OFFを切り替える仕事の場所の提供が必要です。個人が自宅やニッチスペースでやるような商売をするためのオフィスをCoCokaraひのさと等でできると思います。

それから、その場所の提供だけでなく、仕事を作り出すことが必要です。それには、皆さんの趣味を活かすことを考えていて、例えば、古本屋さんや自転車の修理、レコード屋さんあげられます。それから、特技のある方は教室をすとか、同じ趣味を持つ人々たちが共同で店を出して、日替わりで留守番をするのもいいと思います。

今までは、博多駅で飲んで東郷駅に帰ることが多かったのですが、東郷駅前にお金を落とすような飲み方をしたいため、立ち飲み屋さんがあればいいなという意見もありました。そして、女性はパンが好きですから、パン屋さんや働きながらコーヒーが飲めるカフェ等が日の里でも仕事として成り立つということでした。

また、ギャラリーなどの文化施設が日の里にはないので、様々な趣味を飾ることができるギャラリーや、常設のスピーカーなどをおいて屋外で音楽コンサートができる場所があったらいいと思います。

それから、外国人の方々との交流スペース、そして外国人の方が料理をつくって、異文化の食べ物が食べられるような施設も、施設としてだけではなく仕事場としても活用できるような環境になればいいなと思っていて、そういう働く場所を身近な日の里に作ることで、かっこいい大人たちがライフスタイルを見せつけるとか、お母さんかっこいいねと言葉をかけあうような街になればいいなという意見が出ました。



キーワード

- ・博多駅でなく東郷駅前で立ち飲み
- ・半分公共施設的な本屋さん
- ・仕事の隙間に本が読める空間
- ・ニッチスペース、連絡オフィス
- ・駅前のワークスペース拠点
- ・働く姿をこどもが見れる
- ・団地の一階の涼しいワークスペース
- ・同じ趣味をもつ人たちが店を出す
- ・ギャラリーなどの文化施設
- ・シェアオフィス
- ・かっこいい大人たちがライフスタイルを見せつける

色々なアイデアでワクワクしました。かっこいいライフスタイルを見せつけるというのはいいですね！このアイデアを実現できると、ワークスタイルだけでなくライフスタイルも非常に面白くなります。ひのさと48みたいなところすでに始まっていることでもあるので、日の里大通りでも実現可能だなと思いました。



三浦先生

3. 大通りに「訪れてみよう」

「訪れてみよう」の班では、2つの視点から考えました。

1つ目は、日の里をうらやむ自由ヶ丘の住人という視点です。日の里以外の宗像の人たちの日の里のイメージは、日の里まつりだという情報がありましたので、日の里の色をもっと濃くしようということで、日の里まつりのお店と運営をすべて日の里の人でしょうという案が出ました。外部にお店を依頼するのではなく、児童や生徒、日の里にお住まいの方、日の里で働いている方などに依頼をしようという案です。

それからもう一つは、観光が好きな外国人という目線で考えたときに、宗像大社など、そういう世界遺産に行くことを想定して、移動手段が必要だと考えました。サイクリングロードを整備して、自転車も一緒に乗れるバスや電動自動車、3人用のタクシーであるトゥクトゥク等を整備すると移動がしやすいのではないかと考えました。

また、宿泊施設が欲しいということで、駅から近いUR団地の空き部屋を利用して宿泊ができないかとか、ひのさと48で宿泊ができないか、また、グランピングとかもいいのではないかというような意見が出ました。

いろんな人来てほしいので、姉妹都市のブルガリアや金海市の人たちにも宿泊交流をしてもらったりとか。地ビールパーティーをブルガリアとか金海市の方たちもお招きしてやるといいと思います。また、日の里の町目ごとの地ビールを作って、販売したら楽しいという意見も出ました。



キーワード

- ・日の里まつりの出店を日の里の人だけで
- ・ひのさと48、UR団地の空き部屋を宿泊利用
- ・宿泊施設 ホテル、グランピング含む←駅近に欲しい
- ・飲食店 MAP
- ・川遊び、レジャー
- ・姉妹都市（ブルガリア、金海市）の方に宿泊交流 住み始める
- ・CoCokara ひのさとの役割再確認
- ・東郷駅に近い 地ビールパーティー（駅近の場所で）
- ・天神からの急行バスの復活
- ・道の駅 沖ノ島 宗像大社
- ・サイクリングロードの整備
- ・サイクルバス 自転車も乗せてバスに乗る
- ・バス 自転車 電動自転車
- ・トゥクトゥク
- ・路面電車
- ・英語の授業でパンフレットを作ったり交流する

私も外から来た人間ですが、日の里は本当に魅力的なまちだと感じます。この楽しいアイデアも、ぜひ実現してほしいと思いました。そうすると、私もさらに頻繁に来たくなるので、一緒にできたらと思います。



三浦先生

4. 大通りを「みんなの居場所にしよう」

「みんなの居場所班」は、いろんな方たちが集まれる場をつくるということで、多くの意見が出ました。

一つは、世代をまたいでいろんな方が交流できるということからいうと、カフェを通じて、そこがつぶやけるような場所になったらいいのではないかといいところ。例えばそこが、子どもたちが勉強できるような寺子屋的な場所であったり、お昼はカフェ、そして夜はバーやナイトシアターになるような場所になったらいいねという話がありました。そして、中高生の勉強の場としても、そこが世代問わずお互いが教えあえる場で、食べたり飲んだりもできるような場であるといいなという意見が出ました。ハード面からいうと、子どもたちがスマホを使って学習することもあるので、Wi-Fiがあつたらいいなという声もありました。

また、男性の方がなかなか集える場がないということで、男の居場所も考えていかなきゃいけないという話も出ました。あと、中に入りやすいようにするには、外から中が見えるようにガラス張りにするなどの工夫もいるよねという声もありました。また、気軽に挨拶ができるようなつながりの必要性を感じました。障害がある方が集う場としては、トイレや車いすの方が使えるカウンターの高さなどのハード面の工夫が必要で、障害がある方の就労の場にもなるような場になったらいいのではないかといい意見が出ました。



キーワード

- ・バリアフリー段差を無くした青少年センター
- ・寺子屋的な場所
- ・男の居場所
- ・趣味が集まる場所
- ・気軽にあいさつできるような繋がり
- ・外から見える
- ・障害がある人の就労の場になるような居場所
- ・勉強教えあえる場 年齢関係なく教えあえる、食べたり飲んだり
- ・外国人が集う場所
- ・病院
- ・昼カフェ、夜バー 映画ナイトシアター
- ・介護施設 テラス

居場所の中が見えるというのは、すごく大事なことだと思っています。大学の近くに耳の聞こえない方がやってらっしゃったカレー屋さんがあったのですが、すごくおしゃれでも見えていました。そこだとハーフサイズとかも指さして注文できるので、障害のある方と一緒に働いたり、コミュニケーションをとるときも、こういう風にやっ
ていけばいいんだ、真似すればいいんだというのがわかると、あんまり気負わずに入っていけるということがありました。みんなの居場所というキーワードで、みえること、習えることの話をしてたのがすごく印象的でした。



黒瀬先生

5. 「大通り」を人の居場所に

僕たちは大通りを人の居場所にする方法について考えました。

まずは、三浦先生のお話にもあったように、車線を減らしてもいいのではないかと思います。その減らし方については、中央分離帯の片側をなくしてしまうとか、逆に真ん中を無くして空間をつくろうとかいろんな方法がありそうです。一方で、大通りの車線を減らすと、車がどこを通るかを考えることになって、まわりは住宅地なので、そういうところにしわ寄せがいかないかを確認する必要があるということになりました。

また、なにをやるか、何をしたいかということですが、大きく2つありまして、1つ目は、子どもや若者の居場所になったらいいなということで、日常的に使える場所であったり、目的やイベントを考えるべきだと思いました。2つ目は、高齢者の居場所になったらいいなということで、黒瀬先生の話もありましたけれども、山奥に福祉施設があるより、こういう通りの真ん中のところに福祉施設があって、交流したいときは1階に降りて、若者たちも高齢者につきそい、交流の起点になればいいなというアイデアになりました。

最後に、月に一回程度、歩行者天国をやってみたいのではないかと意見も出しました。



キーワード

- ・4車線を2車線化する → URの敷地の一部を公開空地に
- ・住宅・通学→安全面
- ・駅前 経済～お金～人がまわる
- ・子どもの遊び場に
- ・舗装を石畳に
- ・歩行者天国をやる
- ・電柱をなくす
- ・出店
- ・若者と高齢者の交流→福祉施設の1Fで交流したい
- ・毎日何かがある（ストリートパフォーマンス等）
- ・若者の居場所

大通りの車線を減らす策の実現に向けて、真剣に問題点を含めて考えていただきました。大通りの裏の住宅地も思案されていて、通過交通の問題が起きるかもしれないというコメントもありました。今後は、日の里の暮らしがどう変わっていくのか。地域の皆さんで議論を続けていくとより素敵な案になるのではないかと思います。



三浦先生

6. 「両側の街区」をセットで考えよう

サニーの近くには、カラオケやカフェ等、学校帰りに遊んだり友達と話をしたり、まじめな人は勉強とかができる場所を作りたいなと思いました。室内でしゃべるだけでなく、雨の日でも室内で遊べるといいですね。

また、高齢者の方が、サニーから例えば8丁目くらいまで行くときに大変なので、人と荷物とか運べるようなゴーカートのような車があったらいいなと思いました。あと、広場があったら、いろんな人が休めるし、日の里ももっと目立つかなと思って、パフォーマンスやフェスのできる芝の広場が駅前にあったらいいなって思います。

4車線も道路はいらないなと思って、道路を減らして片側1車線通行にしたらいいなと思います。



キーワード

- ・東郷駅前に立体駐車場
- ・室内で遊べる場所が欲しい →カラオケ、カフェ
- ・広場が欲しい →4車線を1車線一方通行で →パフォーマンスできて、芝でフェスもできる
- ・街区道路活用
- ・移動モビリティ（人+宅配）

大通りのUR側だけでなく、反対側の民地も含めて考えてくれたのがとてもよかったです。両側の歩道沿いや、サニーのそば、反対側は銀行の駐車場あたりに、行きたくなるような店や広場ができるいいですね。また、その周辺、例えば坂の上の8丁目とのつなげ方も大事ですね。未来のモビリティに期待できるかも！



柴田先生

7. 暮らしを支える「コミュニティ施設」はなに？①

丘の上にある日の里コミュニティセンターを、この駅前を持ってきて、がけ崩れの心配を無くしたいです。

誰でも気軽に来れる安全な場所にしたいと思います。具体的には高齢者の介護センターを作って、日の里以外に住んでる人も会いに来れるような場所を作ります。まちなかにあるので、地域の人とも関わりやすく、例えば、地域の方と交流して、自分の得意なことを他の人に教えたり、教えてもらったり。

みんなで料理をして共有できるシェアキッチンや、今生き物が減っているので未来の子どもたちが生き物に出会えるようなビオトープも作りたいです。センターの前の大通りのあたりは、全部公園にして行き来しやすいようにしたいです。

あとは子どもたちだけで遊べるように、大人が入らずに子どもたちだけで何かできるような青少年センターを作って、子供だけで遊んだり、未来の夢に向かってバンド練習をしたりとかできる場所がいいなという意見にまとまりました。



キーワード

- ・バンド練習できる
- ・あそべる
- ・図書館
- ・青少年センター
- ・のーとが見える
- ・みんなが交わる
- ・みんなでつくるシェアキッチン
- ・安全な場所
- ・山の中はいや！
- ・色んなことが学べる
- ・食事をシェアできる
- ・日替わりで先生になる
- ・電柱なし
- ・生き物と触れ合える
- ・入りやすい

いまのコミュニティセンターは、防災の問題もありますが、丘の上にあるので習い事などの用事がある人中心の場所という課題もあります。提案のようなコミュニティ拠点が大通りにできたら、色んな人がふらっと訪れたりしながら、偶然的交流、そこから新しい活動等も生まれそうで、わくわくします。とくに若い人の視点が入っているのがいいですね。



柴田先生

8. 暮らしを支える「コミュニティ施設」はなに？②

コミュニティセンターを、サニーの前の103・104号棟のところに作ったらどうだろうという案が出ました。そこに病院とかカフェを作って、子どもさんが夜泣きしたり、夫婦喧嘩をしたりしたとき、もちろん子どもたちでもいいんですけど、24時間誰でも居られる場所があったらいいんじゃないかという意見も出ました。あとは、ショーステージ、音楽を奏でたり、発表ができるところが欲しいよねっという意見もありました。

また、病院とか図書館とかが入るビルも建てて、眼科や内科、脳神経外科など、いろんな科がはいってる病院があるとみんなが行きやすいという案が出ました。

一方で、コミュニティセンター移転後は、その跡地も再利用したら良いと思います。まだ建物が新しいので、フリースクールをつくったり、そこでご飯を食べたり、音楽を奏でたりする場所や、森や生き物を育てる場所をつくったらどうだろうかと考えました。また、小さい子どもを預けられる場所、若いお母さんたちの居場所も作ったらどうだろうかと案が出ました。

あと、なぜ東郷小に子どもが多くて、日の里西小・東小は子どもが少ないんだろうかということ話し合ったときに、HPをもっと魅力的にしたらどうかという案が出ました。親は学校のHPを見て引っ越し先を考えたりします。私たちもですが、若い世代の方は学校のHPを結構見るので、それを魅力あるものに新しくしていただけたらありがたいなという話が出ました。



キーワード

- ・コミセン ・子ども預かりボランティア施設 ・24時間いられる場所 ・コミュニケーションがとれる場所
- ・コミセン跡地利用→森や生き物を育てる場所
→フリースクール（ご飯を食べれたり音楽を演奏できたりするところ）、子連れで来られるカフェ
- ・魅力がある場所（ホームページ充実） ・病院 ・図書館 ・コミセンを坂の下へ（103・104）
- ・加入率 メリットを探す！つくる！ ・発表できる小ステージ ・料理できる
- ・ボランティアセンター →シルバー 有料・手伝

新しい大通りのコミュニティセンターと、今のコミュニティセンターの跡地の2つの拠点を、片方は密にコミュニティを作る場所、もう片方はちょっと新しいコミュニティに出会える場所、と機能分担するアイデアで、それぞれの居場所のイメージが私の頭の中にもしっかり描かれました。ぜひ実現に向けて進んでほしいです。



三浦先生

9. 大通り全体を「セントラルパーク」に

今から夢を語ります。

皆さん想像してください。東郷駅を降ります。目の前に広がるのは、たくさんの木々と緑のきれいな芝生です。そして、いろんな人の声が聞こえます。音楽が聴こえます。そんなまちにしたいなと思います。

歩いていると、小川が流れています。真ん中には、噴水もあります。そのまわりには、セントラルパークのシンボルとなるひのたんのモニュメントがおいてあります。市内最大の市民花壇があって、みなさんが手入れしながら、とってもきれいなお花が、四季折々咲いています。

また、あちこちから音楽が聞こえてきます。毎週ストリートパフォーマーの方が来たり、野外ステージで音楽を楽しんでいたりと。絵や写真が飾ってあったりする、皆さんの好きが集まる場所もあります。もちろんカフェもありますし、夏はBBQやビールフェスをここでしましょう。楽しく飲んで、そのまま安全に駅からお帰り頂けたらと思います。

また、大型遊具で子どもたちが遊んでいます。中高生の居場所が欲しいなということで、中高生が何か食べたり飲んだりしながら、おしゃべりに夢中になっている声が聞こえます。

こんなふうに、みんなの好きが集まって、食べる場所があって、遊ぶ場所があって、行けば楽しい、いつでも楽しい、みんなが楽しい、そんな日の里大通りだったらすてきだなと思います。



キーワード

- ・行けば楽しい。いつでも楽しい。みんなが楽しい。 ・ここに住みたい。100まで住みたい。
- ・食べる バーベキュー場が欲しい，カフェ，ビールフェス
- ・好き 好きなことを発表できる場所、発表や展示ができるイベントスペース、ギャラリー（内向的な子が活躍できる）
アート（美術館，博物館）、屋外で芸術発表ができる、イベントがたくさん
- ・あそぶ 雨でも楽しく、中高生の居場所（飲んで食べて話せる）、子ども連れで楽しめる場所
- ・カラフルにしたい！！・ひのたんシンボル ・木，噴水，小川 ・ビオトープ めだか ・市内最大市民花壇
- ・ゆっくり走る（車30 km/h） ・ロープウェイで日の里を見ながら移動したい

この班が一番大胆なアイデアで、駅前の道路を全部公園にしてしまおうというものです。先程藤原さんのみちあそびの発表を聞いて惹きつけられた人が多かったようで、熱い議論で非常に盛り上がっていましたね。発表もステキで、誰もがそのシーンを頭に思い浮かべたと思います。今はまだ夢物語のように聞こえるかもしれませんが、たとえば自動運転が普及してだれもマイカーに乗らなくなると、一気に実現するかもしれません。まずは今年のストリートパーティのイベントから、夢をつないでいきましょう。



三浦先生

10. 「日の里全体」を魅力的に

私達は、日の里全体について考えました。

まずは、駅を中心とした街づくりということで、この大通りにすべての地域施設を持ってきたいと考えています。4車線を2車線にすることで拡がる歩行者空間は、アスレチックコーナーや遊園地、人が集まる青空市場、ダンスや各ショーとかの発表ができたりライブができるステージなどをつくりたいです。なぜ駅前に集約するかというと、日の里全体のまちづくりにおいて、まずは目の前の20年、さらに50年先をみすえたビジョンが大切だと考えたからです。

しかし、集中すると何か足りなくなります。例えば徒歩や自転車で移動している人もいます。今はオンデマンドバスもありますが、やっぱり移動できる距離が限られてしまいます。そこで、遊園地にあるような20キロでゆっくり走ってみんなが乗れるスローモビリティを循環させることによって、日の里の一番端っこに住んでいる人も安全に駅前に来れるような対策をしてほしいという意見がありました。

そして、歴史文化の継承ということで、例えば東郷高塚古墳がありますので、こういった日の里の文化をしっかりと出してほしいという意見がありました。観光も盛り上げて、日の里の文化や世界遺産を学んだりして、さらに発信することができる拠点が重要です。

最後に、日の里東小学校の体育館が古くなっているため、建て替えるなら、1階をスーパーにしたほうがいいという意見が出ました。スーパーと学校を連携させて、そこで買い物ができる面白いと思います。また、キッチンカーや移動販売車が、日の里のあちこちの拠点を週に何日か回ってくれれば、街全体での買い物ができるんじゃないかという話もできました。



キーワード

- ・20年後を考えつつ、50年先を見ずえる
- ・のり一との活用
- ・スローモビリティ
- ゆっくり安全
- ・駅前 生活環境施設の融合！
- 銀行を1か所に、ワンストップ
- ・キッチンカー移動販売（移動スーパー）
- ・遊園地→アスレチックコーナー&芝生
- ・4車線を2車線に
- ・歩行者天国
- ・イベントスペース
- ・人が集まる青空市場
- ・文化の継承
- ・観光カフェ（世界遺産・古墳）
- ・東小 スーパー体育館へ

日の里では、まちびらき50周年を期に「ネクスト50」として次の50年を考える取り組みを行ってきました。今の発表にあったように、まずは2世への代替わり後のコミュニティや新しい交通システム、若い担い手による新たな商いなどが想像できる20年後を目標に具体的なまちづくり方策を考えることが重要です。そのうえで50年後の未来、今日参加してくれた中学生が親になってその子どもたち、もしかしたら孫たちが、日の里でどんな暮らしをしているのか、きょうの皆さんの発表はそんな未来につながる素敵な提案だったと思います。



柴田先生

各グループの発表をうけてのディスカッション

三浦詩乃先生 黒瀬武史先生 司会：柴田建先生

柴田：みなさん、素晴らしい発表をありがとうございました。三浦先生、黒瀬先生には、各グループの発表に丁寧にコメントをしていただきましたが、さらに地域の皆さんに伝えたいことが色々と湧いているのではないかと思います。そこで本日最後は、お二人とのディスカッションで締めたいと思います。

まずは三浦先生、特に印象に残った発表はありましたか？

掛け算による意外性のあるアイデア

三浦：特定のグループと言うよりも、新たな使い方の提案が面白かったですね。例えば、「働こう」と「大通り」の掛け算から、思いもよらないアイデアが生まれ面白くなりそうだなと感じました。

柴田：今日は短い時間でしたが、途中でワールドカフェ方式を取り入れてみることで、その意外な掛け算が生まれたように思います。最後の発表でも、このグループのアイデアと、別のグループのアイデア、つなぎ合わせると一層魅力的になるな、と楽しく夢想しながら聞いていました。この発表の後にも、そのような議論の場を持つと、更に良いアイデアが出てきそうですね。

日本では、2000年以降、セキュリティに関する関心が非常に高まって、子どもの遊び場にもちゃんと防犯カメラをつけよう、となってきました。でも、暮らしの環境が防犯カメラだらけになって、本当にそれでいいのかという議論があるわけです。例えば、子どもの遊んでいるよこで大人がギターを練習していると、実は見守りになっている。そんな居場所は、カメラよりも安全だし、さらには挨拶をしたり、時には一緒に歌ったりするような、子どもの成長にもつながる大切なあそび場になる。そんな居場所の掛け算が大切ですよ。

無謀な夢を実現する街

黒瀬：皆さんすごく思い切って、20年後、50年後を見据えた大胆なアイデアを出してくれました。それぞれ、本当にこんな街に住んでみたいなと思えるビジョンを描いていたのが、とても印象的でした。

普通このようなワークショップでは、大体が現実的で無難なアイデアに留まることが多いのですが、日の里の皆さんは、ちょっと特殊ですね（笑）。こちらの想定以上の、結構無謀な夢を描いてくる。でも、その結果として、あの「ひのさと48」ができたのですから、それを本当に実現させる力のある街、皆さんが本気で遊んでいる街だな、と思いました。

僕は、今日皆さんが発表されたことも、実現できそうな気がしています。例えば、みちを遊び場にするストリートパーティを、ぜひ第一弾として大通りで実現してほしい。そして、「ああ、やっぱりあの時楽しかったね」とか「ああいう風になるんだったらやろうよ」とか、「これはちょっとむりだったね」と盛り上がりながら、次の実現のステップへと進んでいくのがいいのではないかと思います。

柴田：まちづくりでは、この場所には「誰かのために」〇〇が必要だ、という議論をしがちなんですけど、その際に、まずは自分自身が楽しむということを忘れてるんですね。自分自身の立場で考えて、こんな楽しい場があったら、少なくとも私は絶対行くよと。ストリートパーティの話は、何と言っても今日講演もしてくれた藤原さん自身がめちゃめちゃ楽しそうにしているのがいいですね。なので、そのテーブルには多くのひとが集まってきて、ワチャワチャ楽しそうにアイデアを出し合っていました。

今日の中学生の発表でも、彼ら/彼女らが「これをやってみたい」と言ったら、次々と協力する人が集まってきて、実現してしまう。今日のワークショップで一番いいなと思うのは、結論が、単に行政への「これをやってください」というお願いで終わらないところですね。みんな自分事として、「これやりたいです」とか「じゃあだれかやる人いないかな」というふうに話が広がっていく。そんな力が集まることで、本当のまちづくりが実現する。

以前に東小でシンポジウムを実施した際にも、無謀なアイデアがたくさん出ました。でも、地元から、「期待してます、協力します、担い手にもなります」、という声がいっぱい出て、その結果、民間企業の事業として普通はありえないぐらい地域と繋がり強いプロジェクトが実現しました。

空き空間と担い手をつなぐコーディネーター

三浦：今日は、「私はこんな場所が欲しい」というアイデアがすごく具体的に出ました。だからこそ、例えばストリートパーティでいうと、次は実際に体験する中で、場所の楽しみ方やこういう人がいるんだっていう出会いなどの、街やまちが持っているポテンシャルを実感してほしいですね。さらにその次のステップでは、コーディネーター側に回る人も出てきて、個別のアイデアを横に繋げていくことで、複数のアイデアと一緒に実現できたりする。みんなが使うまちだからこそ、そんな拡がりかたができればと思います。

黒瀬：場所の運営で、最後に重要となるのは、人件費なんですよ。でも、例えば趣味でやっていますとか、自分も楽しむから謝礼はいらないよ、その代わりに私はこの場所を自分自身の居場所にするよっていう方がたくさんいらっしゃるの、日の里の特徴だと思います。だから、究極には、みんなが遊んで暮らしていれば、人件費タダでもできそうな気がしています。そういう方々がいらっしゃるからこそが一番の力で、だからこそ皆さんのアイデアも、実現不可能な夢とは感じませんね。今日は皆さん、「私やるよ」という方が多く参加してくれているので、やっぱりそこが強みなんだと思います。

柴田：日の里では、特に CoCokara ひのさとが開設してから、多くの人を巻き込んで、「私やるよ」という担い手を次々と発掘してきました。私はここを、近づいたら何かを始めるまで離してくれない「アリジゴク」と呼んでいます。もちろん良い意味で（笑）。

一方で、日の里のもう一つのポテンシャルは、実は空き空間がいっぱいあることだと思っています。空き店舗に CoCokara ひのさとができて、空き団地はひのさと 4 8 になった。道路も以前と比べるとそれほど車が通っていない。未利用の空き地もいっぱいある。これらは、新築の建物に比べて安く、ときには無料で活用することができます。

そこで、やりたい人と空いている空間をつなぐ、そんなコーディネーターの役割も、日の里ではまちづくり委員会や CoCokara ひのさとなどが担ってきました。そこからの声掛けでわたしたち大学も関わらせていただいて、さらには民間企業や市役所や UR さんもみんな繋がっている。このネットワークが、他の地域にはない、日の里独自の強みだと感じています。

自然とのふれあい

三浦:他にもいいなと思ったのは、大通りにビオトープのような自然を有する空間が作りたい、というアイデアです。地方の他のまちに行くと、周りに十分自然があるので、なかのまちは東京みたいにしたい、という意見が出やすいんですね。でも、今日のアイデアは、まちの中心にも、誰もが触れ合える自然がやはり欲しいと。また、宗像には宗像大社があり、日の里にも古墳などの貴重な歴史・文化があるということで、そことも繋げていく。非常にこのまちの文化性を感じさせるよい提案だなと思いました。

外部への暮らしの価値観の発信

黒瀬:日の里でこれから必要なのは、こういう暮らしを楽しんでいる皆さんの価値観を、日の里の外部へもっと積極的に発信することだと思います。最近になって、日の里に引っ越してくる若い家族は増えてきています。でも、この価値観がうまく伝わらないと、もう少し博多に近いまちがいいかな、って思われてしまう。そうじゃなくて、ここでは子どもたちがこんなにのびのびと暮らしているんだ、誰もがなにかにチャレンジすることもできるんだ、じゃあ日の里に住もうと、そんな選ばれ方をすべきなんですね。だから、発信はもっとできるんじゃないかなという気がしています。

柴田:それは本当に、今日も参加してくれている市役所や、あるいは日の里の新しいNPO「まちづくり宗像」が担う、これからの大事な仕事ですね。僕もできるだけお手伝いできればと思っています。

今回のワークショップも、これでおしまいではありません。いただいたアイデアを報告書にまとめて、市役所やURにお渡しします。また、コミュニティセンターのホームページで日の里の皆さんにも公開して、まずは今地域で何が起きているかを知ってもらう。そして、さらに多くの人と協働しながら、大通りのまちづくりを進めていきたいと思っています

そのうえで、ひのさと48のように、大通りのプロジェクトも外部の多くの人に注目してもらって、「こんな場所があるから日の里にどうしても住みたい」と思ってもらえたらいいですね。

今後の期待

三浦:今回は、日の里セカンドステージの活動によんでいただいて、非常に光栄ですし、最初からこんなにアイデアが出るのかと驚きました。こういう機会を重ねていくことで、お互いに学びあえるし、今後は新しく住み始めた方も巻き込めると、よりとがった案が出てくるかと思っています。今後の議論も期待しております。

黒瀬:僕もいろんなまちに行きますが、一番ワクワクするのは、地元の人を楽しそうにしているまちです。そういう姿を見て、「このまちいいな、ここに住みたいな」と感じてしまう。あるいは、日の里で育った方が「やっぱり帰ってこようかな」という瞬間が生まれると思います。ぜひ今日と同じように、みなさん楽しんで暮らしながらみちで遊ぶことも考えて、楽しいまちづくり・みちづくりを続けていただければと思います。

柴田:日の里では、これまでも力強いまちづくりを行ってきましたが、今日はお二人に参加していただき、新しい刺激をいっぱいもらったことで、さらに議論が深まったり盛り上がったと思います。本日は本当にありがとうございました。



グループの中学生や高齢者と議論する熱血黒瀬先生！



3人の先生によるディスカッションの様子

シンポジウムを振り返って

日の里地区まちづくり委員会 委員長 山村多計治

コロナ禍の影響で何度も延期し、講演会やワークショップを開催するのは、未だ難しいのではないかと心配いたしました。しかし、今回のシンポジウムには、想定を超える多くの方々に参加いただき、下記のような沢山の提案や意見をいただきました。

①駅前大通りを「みんなの居場所」にとの提案が多く寄せられました。

駅前大通りは、日の里地区の顔ともいべき場所で、活性化、賑わいづくりのために、様々な人々が集まり、交流する場所にしたいと思います。コミセン、子ども若者支援センター、公共施設、商店、銀行、郵便局などの集約化を図り、遊ぶ場があり、働く事が出来る場でもあって欲しいと考えます。年間イベントとして「日の里ご近所みちあそび」も今年5年目を迎え、地域の皆さまに期待されるイベントになりつつあります。歴史のある「日の里まつり」と併せて日の里地区の2大イベントとすることにより更なる発展が期待されます。

提案の一つとして、今年10月に駅前大通りで開催されます「日の里ご近所みちあそび」を「日の里ストリートパーティ」と進化させ、住民の交流を促進、20年、50年後の駅前大通りのイメージを多くの方々に共有していただくために「セントラルパーク」（公園）だったらというキーワードも出ていました。

②今回は日の里学園の協力をいただき中学生の参加がありました。

非常に日の里を愛してくれている事がよく分かりました。中学生もまちづくりを担う住民の一人、同じ住民として自分の意見をしっかりと語ってくれました。これからの「まちづくり」に積極的に参加していただく事を期待しています。今は、学校教育と社会教育両面での教育が大事になっており、地域と連携して、とても良い取り組みが出来たと思います。

③今回も宗像市外の大学の先生方や大学生などまちづくりの研究に携わる方々に参加いただけた事は、このまちのポテンシャルや魅力があることを再認識させられました。これらの先生方には、引き続き「全国に先駆けた団地再生のモデル地区づくり」へのご支援をお願いしたいと思います。

④まちづくりに関する国等の支援策の活用は必須ですが、専門的であるために情報収集や理解の面で不十分である事に今回のシンポジウムで気付きました。委員の理解を深めるため、今後は、講師を務めていただいた先生方をお願いして勉強会を行い、実現化に向けて必要となるノウハウ取得に努めたいと思います。

⑤これまで、日の里地区のまちづくりは、日の里コミセンのエリアを意識して進めて来ましたが、近隣自治会との連携の必要性を強く感じました。駅前大通りから3号線バイパスにつながるジャンクションは南郷地区の王丸にあり、日の里学園の生徒や児童の中には、東郷地区である村山田や久原から通学している子どももいます。これらの自治会に住む方々からも日の里地区のまちづくりに関するご意見やアイデアをいただきたいと思います。今後は、近隣自治会ともお互いの意思疎通を高め、情報発信を図ってまいりたいと思います。

私たち、「日の里地区まちづくり委員会」は、平成 27(2015) 年度から令和 6(2024) 年度を計画期間とする第 2 次宗像市総合計画に「日の里地区が目指すまちづくり」を掲げて活動を進めてまいりました。今後は、今回のシンポジウムの提案が、提案のままで終わらないよう、実現に向けた取り組みを推進しなければと考えています。

今回のシンポジウムの提案については、報告書を作成し、UR・宗像市・地権者・専門家・企業・地域住民などの方々にお伝えしたいと思います。現在、宗像市では「第 3 次宗像市総合計画」の策定作業が進んでいると伺っています。シンポジウム報告書が策定作業の参考資料になれば有り難いと考えています。日の里地区のまちづくりに関心のある方々には、日の里コミセンの HP にシンポジウムの報告書を掲載しますので、お読みいただきたいと思います。

また、「日の里地区が目指すまちづくり」の残された計画期間は、一年半ほどになりましたので、この期間の活動の振り返りと今後の課題について整理したいと思います。まちづくりには、ゴールはありませんし、提案を実現するためには、長期間の年月を必要とします。その為、永続的に活動出来る組織が求められます。現在の「まちづくり委員会」は第 2 次宗像市総合計画が終了する 2025 年 3 月迄となっております。以後、どのようにして活動を進めるのかは、日の里地区コミュニティ運営協議会の諮問委員会より「まちづくり」が永続的に活動できるように組織的見直しが提案されており、これらを含めた結論を待つ事になります。新たな体制が定まりましたら、引き続き、日の里地区の再生の為に、次世代を担う人たちの参加及び皆様方の一層のご理解、ご支援をお願い申し上げます。最後になりましたが、シンポジウムには多くの方々に参加いただき、長時間にわたり活発な議論を重ねて、沢山の提案や意見をいただきました。心から感謝申し上げます。



解体工事の始まった UR103,104 号棟（2023 年 8 月撮影）。

できた当初は、当時話題だった新宿副都心と同様に「超高層」と呼ばれ、
ここで育った子どもたちにとって日の里の誇りでもありました。
その勇姿も、これで見納め。

地域みんなの力を合わせて、次の世代へと受け継ぐ魅力的な再生の実現を！

日の里大通り 未来を語るシンポジウム 報告書

発行年月日 2023 年 8 月 25 日
発行者 日の里地区コミュニティ運営協議会
日の里地区まちづくり委員会
編集 柴田建（大分大学准教授・日の里暮らしの編集室）
宮崎颯太（大分大学大学院）
江崎彩乃（大分大学理工学部）
イラスト 江崎佑弥